



# Yamagata Roots

～山形で育まれた原点が、今の支えに～

「Yamagata Roots」は、首都圏など県外で活躍する本県にゆかりのある方々に光を当てる企画です。総合商社やITビジネスでの豊富な経験を持ち、現在テリロジーグループを率いる鈴木達氏は、戸沢村生まれ山形市育ち。30代から経営者としてビジネスの最前線に立ってきた鈴木氏に、経営哲学に影響を与えた故郷での経験やこれからの山形に期待することを聞きました。

## 経営哲学の礎は故郷にあり



株式会社テリロジーホールディングス  
テリロジーグループCEO  
代表取締役社長 鈴木 達氏

すぎき・とおる 1959年戸沢村生まれ。山形東高校、東北大学経済学部卒。82年日商岩井(現・双日)入社。UCOM(現・アルテリアネットワークス)代表取締役社長、オリンパスビジネススクリエイツ代表取締役、インヴェンティット代表取締役社長等を経て、2016年テリロジー入社。24年より現職。

テリロジーグループは、サイバーセキュリティやICTソリューション&サービス提供、DX推進などを展開するITテクノロジー企業集団です。私は入社3年目で日商岩井の情報産業本部に配属されて以来、現在まで一貫してIT事業分野でキャリアを重ねてきました。商社時代は通信機器の北米市場向け輸出を担当し、マレーシアやアメリカに駐在して国際ビジネスの経験を積みました。経営者としてのスタートは、日商岩井の社内ベンチャーの社長に就任した33歳の時。その後も光ブロードバンド事業のUCOMなど、情報通信産業のさまざまな企業で経営に携わってきました。

テリロジーグループは「個の尊

## 利他の心が山形県人の魅力



就任10年で社員規模は6倍、年商規模は4.5倍に成長した

重・力の結集」をスローガンに掲げていますが、その発想の源は、7期にわたり戸沢村政を担った祖父の教えにあります。私は母の実家がある戸沢村角川地区で生まれ、祖父に国保発祥の地・角川の歴史と相互扶助

の精神を教えられて育ちました。テリロジーは上場企業ではありませんが、IT業界ではまだまだこれからの会社です。角川の人々が力を合わせて助け合ったように、小さな会社でも力を結集し束になってかかれれば大企業と戦える。スローガンには、そんな思いを込めています。

相互扶助の精神をはじめ、私の倫理観や経営哲学の源は、山形にあるように思います。厳しい場面こそトップが最前線に立つ率先垂範の姿勢は、山形東高のフェンシング部で榎昭一先生に学んだ、騎士道の「ノブレス・オブリージ」から生まれたものです。

また、明るく楽観的で何事も肯定的に受け入れる華道師範だった母の考え方は、私が経営で大事にしている「クレメンティア(寛容性)」と「フェアネス(公平性)」に通じるものだと思います。山形での生活に根差したさまざまな経験が、私という

### ふるさとの思い出

生まれて間もなく、県職員だった父の転勤で戸沢村から山形市へ移り、鈴川小、山形五中に通いました。中学時代は飯田先生に「学ぶことの面白さ」を教えていただき、それが山形東高へ進学するきっかけになりました。飯田先生をはじめ、山形県の先生方には今でもとても感謝しています。1学年上の憧れの先輩に誘われて、山東ではフェンシング部に。東北大でもフェンシング部主将を務めました。高校時代は個人戦で県チャンピオンになりインターハイにも出場。インカレでもランキング選手だったんですよ。今は体が硬くてもうできませんけどね(笑)。

人間の「背骨」になり、今につながるっているのかもしれない。私が「山形県人っていいな」と思うのは、利他や奉仕の献身的な精神が根付いているところです。例えば、芋煮会をする時は、かまどを作る人、まきを割る人、材料を切る人、それぞれがみんなのために自然に働きますよね。山形県には、そうした人のために働くことを重んじる教育や文化があります。それは日本のため、世界のためになる、素晴らしい財産だと思っています。

この企画のタイトルにも「ルーツ」という言葉が付いていますが、自分の生まれ育ったルーツに誇りを持つことこそ、「真の国際人」に不可欠な条件だと思っています。故郷でどんな経験をして、何を感じ、何を考えたか。そこが自らの価値観・哲学となり、時代や場所の変化に流されない「背骨」になるはず。故郷への自信と誇り、利他の精神を備え、世界のために活躍できる人材を、山形県の教育から生み出してほしいですね。

